

◆ 今週のコメント

- 百日咳の報告が1例(女性, 20～29歳)あります。本年の累積報告数は, 8例で, 年齢階級別の内訳は, 0～5ヶ月が1例, 6～11ヶ月が3例, 1歳が2例, 8歳が1例, 20～29歳が1例です。
- RSウイルス感染症の報告が5例(6～11ヶ月, 1歳, 2歳が各1例, 20歳以上が2例)あります。年齢階級別にみると, 過去5年間の年報告数では, 0～1歳で8割以上を占め, 20歳以上の報告は0～1例ですが, 今週は2例あります。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

定点当たり報告数は, 0.57で, 先週(0.40)に比べ, 少し増加していますが, 第15週以降, 緩やかに減少しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- 三類: 腸管出血性大腸菌感染症(O111 VT1, O26 VT1) 2例【1月以降の累積報告数 9例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.57	39
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.44	305
	② 水痘	0.95	39
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.93	38
	④ 突発性発しん	0.44	18
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.17	7
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

病原体情報

ありません。

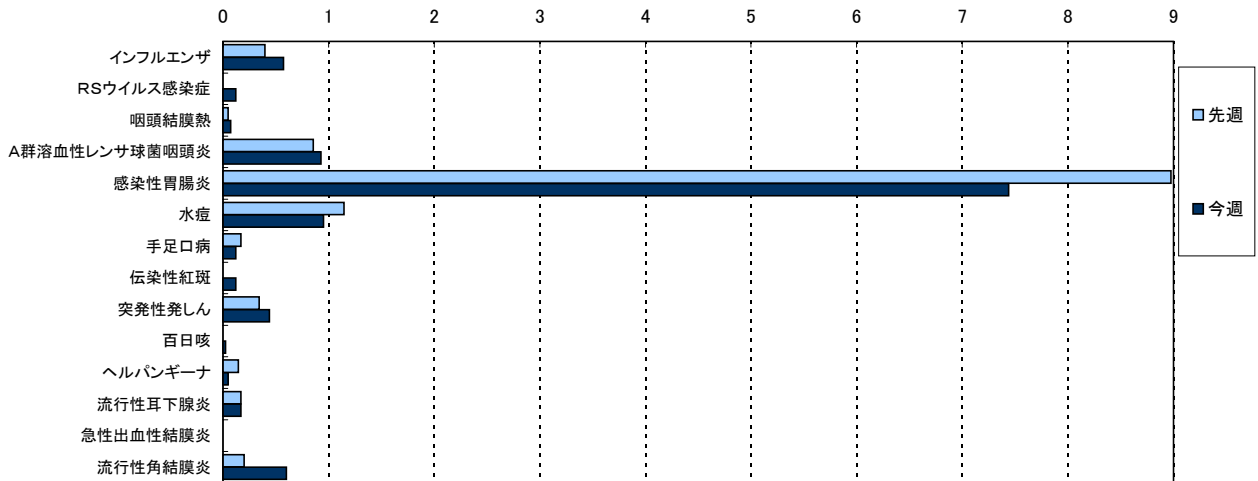
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成21年5月28日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在の保健所での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
病原体情報は, 病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

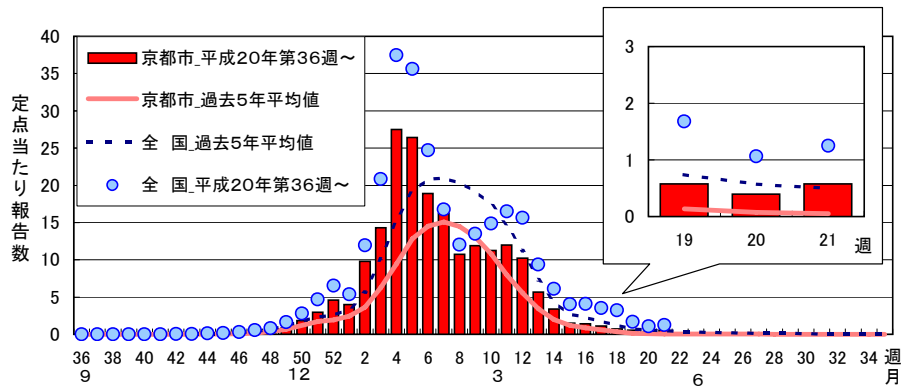
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第21週)と先週(第20週)の定点当たり報告数の比較



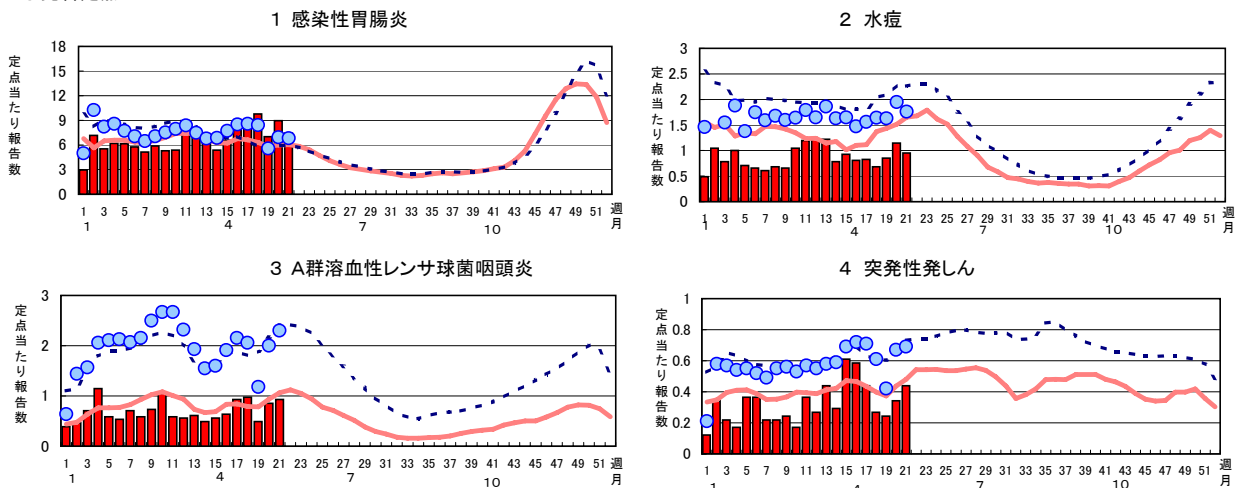
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第17週	76
第18週	51
第19週	39
第20週	27
第21週	39
累積報告数 (第36週以降)	13594

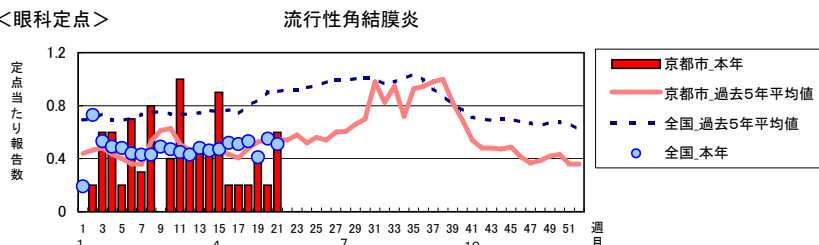


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第21週)のトピックス: <インフルエンザ>

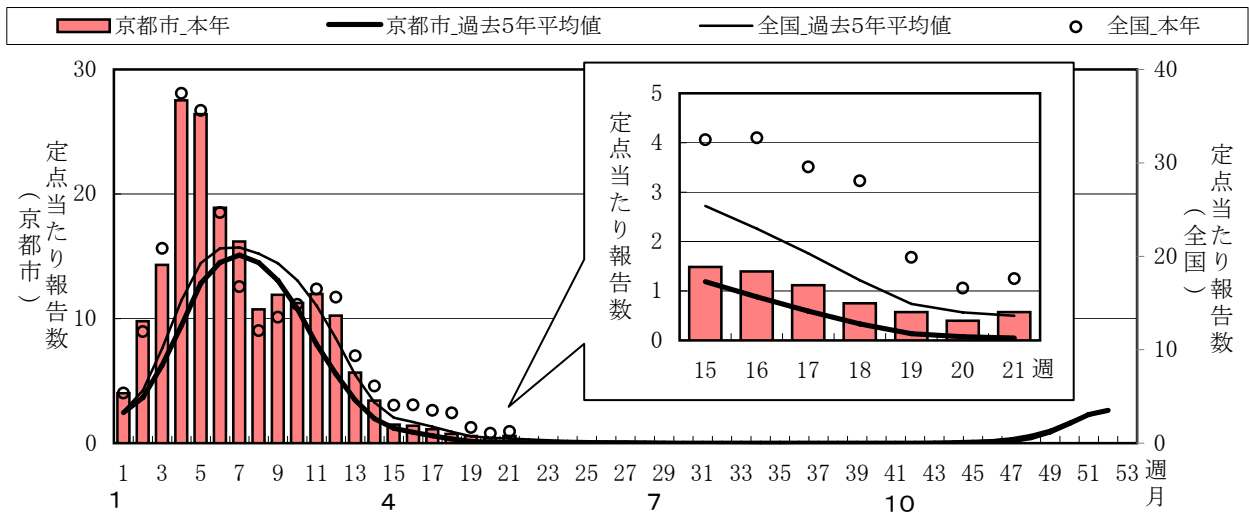
定点当たり報告数は、0.57で、先週(0.40)に比べ、少し増加していますが、第15週以降、緩やかに減少しています。

本市の本年及び過去5年間の第15週以降の定点当たり報告数の推移をみると、本年、平成17年及び平成19年は、第17週において1.0を上回り、第18週において1.0を下回っています。しかし、それ以降、平成17年及び平成19年では、順調に下がっていますが、本年では、下がり方が緩やかで、第18週以降は過去5年間で最も多くなっています。

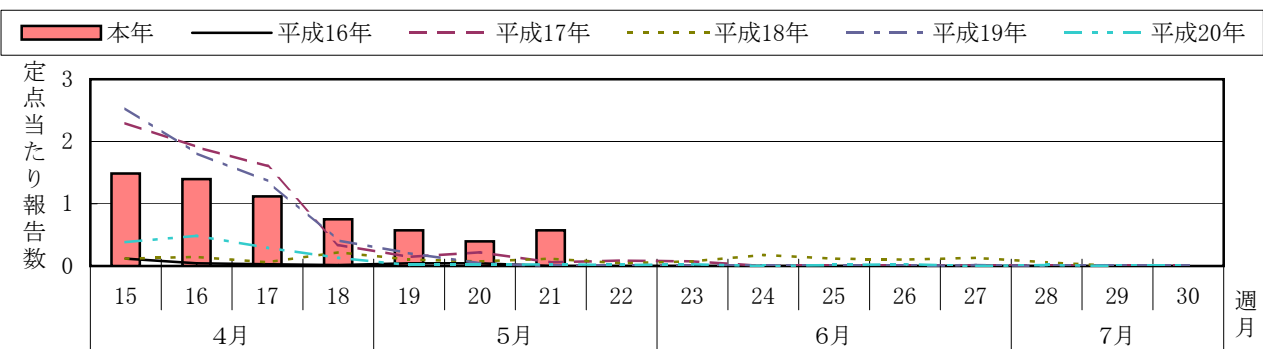
第15週～第21週の定点当たり報告数の累積報告数を年齢階級別割合にみると、本市及び全国共に、5～9歳が最も多くなっています。次いで多いのは、本市では、0～4歳で、全国では、10～14歳となっています。

なお、新型インフルエンザA(H1N1)については、前号で報告した3例[市内在住 3例(確認地:市内 2例, 兵庫県 1例)]の後、京都市内の感染はありません。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



本市の本年及び過去5年間の第15週以降の定点当たり報告数の推移



定点当たり報告数の累積報告数の年齢階級別割合(第15週～第21週)

